

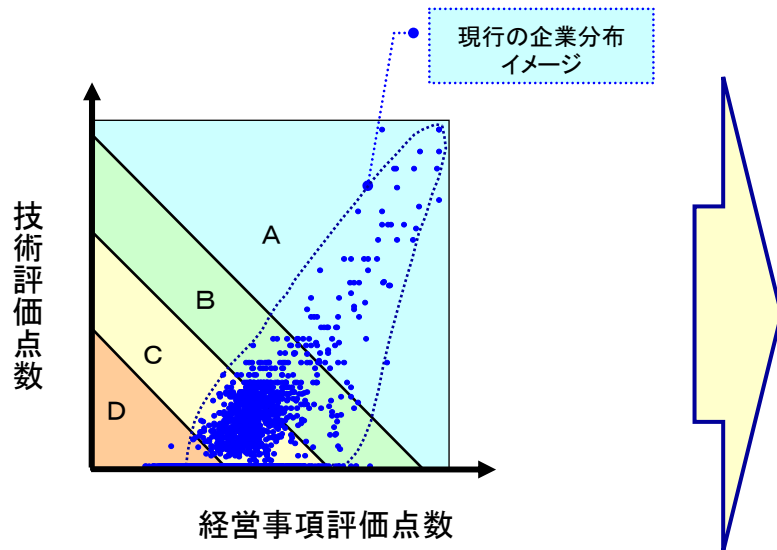
# 技術評価点数の算定式に係る シミュレーション結果

平成20年3月3日

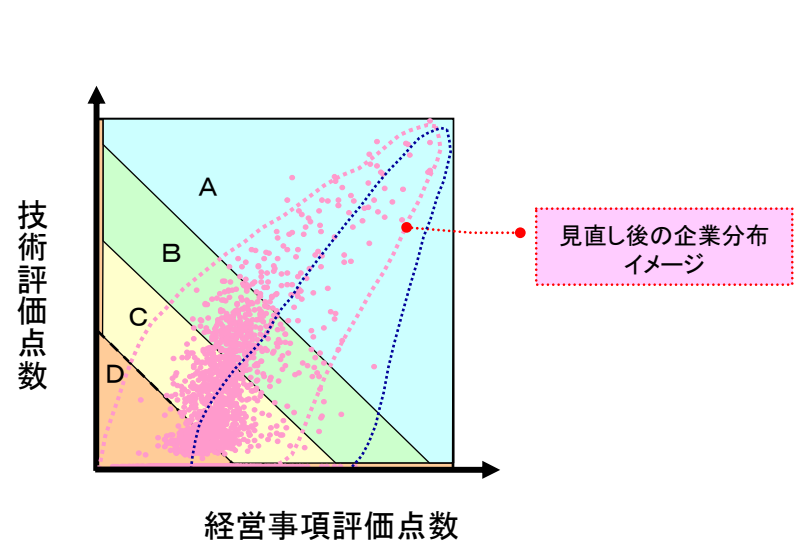
# シミュレーション結果の概要 (1/3)

基本的な考え方	前回部会で提示した方向性		具体的手法(素案)	現行	シミュレーション結果
	案1	例示			
②技術力と経営力の適正なバランス	各企業の経営事項評価点数と技術評価点数の比率を1:1に近づける	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経営事項評価点数から基礎点数(※)を控除</li> <li>●技術評価点数の算定式における【工事規模】を対数値化</li> </ul> <p>※現行の経営事項評価点数の基礎点数(下限値)は333点であるが、H20年4月1日施行の新しい経営事項評価点数では278点となる。</p>	同左	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現行は、上位等級の企業では経営事項評価点数と技術評価点数の比率が1:1であるが、下位等級の企業では経営事項評価点数の比率が4:1程度と大きくなる場合が多い。</li> <li>●案1を採用することにより、<b>下位企業においても比率を1:1に近づけることが可能となる。</b></li> <li>●【工事規模】を対数値化することにより、相対的に【成績評定】が技術評価点数に及ぼす影響が大きくなり、<b>成績優秀者の順位が上昇する</b>傾向にある。</li> <li>●<b>全等級において等級変動への影響が大きい。</b></li> </ul>

〔現行〕



〔方向性〕



# シミュレーション結果の概要 (2/3)

基本的な考え方	前回部会で提示した方向性		具体的手法(素案)	現 行	シミュレーション結果	
	案2	例示				
③新規参入の促進	案2	他の地方支分部局の【 <b>部局係数</b> 】を大きくする	—	<b>工事請負金額</b> ●2億円以上:1.0 ●2億円未満:0.5	<b>工事請負金額</b> ●7.2億円以上:1.0 ●2億円以上7.2億円未満:0.5 ●2億円未満:0.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地方ブロックをまたいで<b>広域的に活動している企業の順位が上昇</b>する傾向にある。</li> <li>●7.2億円未満の【<b>部局係数</b>】が大きくなるため、特にB～D等級間において<b>等級変動が見られるが影響は小さい</b>。</li> </ul>
	案3	地方公共団体等の <b>他の発注機関の実績</b> を考慮する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●当該地方支分部局管内の都府県及び政令市の実績を評価に加える。</li> </ul>	<b>都府県(全国一律):0.1</b>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>●都府県の工事成績評定のデータ整備状況を踏まえ、過去2年間、500万円以上の工事を対象とし、直轄工事と同様に当該地方支分部局管内に限らず<b>全国の実績を評価</b>する。</li> <li>●政令市はデータ整備が遅れているため、次回は対象としない。(データ整備状況を踏まえ、次々回以降考慮する。)</li> <li>●都府県の工事成績評定の平均点にばらつきがあるため、各平均点を控除し、平均点を上回った成績優秀者のみ加点を行う。(平均点以下を減点しない。)</li> <li>●これらにより、<b>都府県で優秀な実績を有する企業の順位が上昇</b>する傾向にあり、特に<b>C・D等級間における等級変動への影響が大きい</b>。</li> <li>●技術評価点数が0点の場合にD等級に格付する枠組みと併用することにより、<b>直轄・都府県ともに実績がない企業がC等級からD等級に下がる</b>。</li> </ul>

# シミュレーション結果の概要 (3/3)

基本的な考え方	前回部会で提示した方向性		具体的手法(素案)	現行	シミュレーション結果	
		例示				
④各等級に応じた品質の確保	案4	【成績評定】から <b>控除する点数を引き上げる</b>	【成績評定】の控除点数:65 ※都府県データは「平均点」を控除	【成績評定】の控除点数:65	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【工事規模】を対数値化することにより、相対的に【成績評定】が技術評価点数に及ぼす影響が大きくなる。</li> <li>●これにあわせて控除点数の引き上げを行うことは<b>等級変動への影響が極めて大きい</b>。</li> <li>●また、次回の審査対象となる工事(H16.10～H20.9完成)の大部分が既に完成していることも踏まえ、次回は<b>65点に据え置く</b>。</li> <li>●今後完成する工事については良い成績を期待し、次々回以降、控除点数を引き上げる。</li> </ul>	
	案5	【成績評定】における <b>事故による減点の取扱を見直す</b>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事故による工事成績の減点が工期の長短に係わらず一律であるため、工期が長いほど不利と指摘されているが、法令遵守等による減点を一律控除した場合においても<b>等級変動への影響は極めて限定的</b>である。</li> <li>●また、事故には様々な要因があり、一律に事故による減点を控除することは<b>適当ではない</b>ため、<b>採用しない</b>。</li> </ul>	
	案6	【技術的難易度】の係数を見直す	<ul style="list-style-type: none"> <li>● I :1.0</li> <li>● II :1.2</li> <li>● III :1.5</li> <li>● IV :1.7</li> <li>● V :2.0</li> <li>● VI :2.0</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● I :1.0</li> <li>● II :<b>1.25</b></li> <li>● III :<b>1.5</b></li> <li>● IV :<b>1.75</b></li> <li>● V :<b>2.0</b></li> <li>● VI :2.0</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● I :1.0</li> <li>● II :1.2</li> <li>● III :1.4</li> <li>● IV :1.6</li> <li>● V :1.8</li> <li>● VI :2.0</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【技術的難易度】をより適切に反映させるため、係数を大きくする。(VIの工事はほとんどないため据え置く。)</li> <li>●実績の有無が分かれるC・D等級間を中心に等級変動が見られるが<b>影響は小さい</b>。</li> </ul>
	案7	<b>直近の実績を重視した評価とする</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●直近1年以内:2.0</li> <li>●直近1～2年以内:1.5</li> <li>●直近2～3年以内:1.0</li> <li>●直近3～4年以内:0.5</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●直近2年以内:<b>2.0</b></li> <li>●直近2～4年以内:1.0</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共工事が減少する中、過当競争を助長する懸念があるため、完成時期による差を最大2倍に圧縮する。</li> <li>●実績の有無が分かれるC・D等級間を中心に等級変動が見られるが<b>影響は小さい</b>。</li> </ul>
	案8	<b>新たな評価指標を導入する</b>	【技術開発実績】 ●NETIS登録件数について評価結果を勘案して加点	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>●データ整備、蓄積が必要なため、次回は<b>考慮しない</b>。</li> </ul>